

Title	追記(河内佛國極東學院所藏安南本書目)
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1934
Jtitle	史学 Vol.13, No.4 (1934. 12) ,p.203(785)- 204(786)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19341200-0203">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19341200-0203</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

二一七三	觀音伏祖靈感籤詩	一本
二四七九	觀音遇海眞經	一本
二十六畫		
二三四六	讚天地輪燈放水燈放生等儀	一本
二十八畫		
驩部		

## 追記

二二八八	驩州風土話	一本
五九二	驩州風土話	一本
二六二一	驩州風土誌	一本
二十九畫		
鶴部		
一二一六	鶴山詩草	一帙

## 松本信廣

本書目は河内の Ecole Française d'Extrême-Orient 所

藏安南本の書目である。本學院は佛國が印度支那及び近傍諸國の考古學語言學的研究を目的として建設した研究所で一九〇一年サイゴンに開設せられ、翌年ハノイに移轉してをる。安南本は最初の所員たりしパウ・ペリオ氏以來歴代の支那學安南學擔任者の熱心に蒐集した所のものであり、順化の内閣所藏本を寫したり、史館の版木をもつて再刻したり、其他購入、謄寫によつて今日他に類なきコレクションとなつてをる。一九三〇年の統計によると左の

三類から成つてをる。

- A 漢文にて記されし安南本  
二千五百二十八部 二千八百二十一冊
- A B *Chur nom* (安南俗字) にて記されし安南本  
五百六十一部 五百七十冊
- A C 漢籍の安南版  
三百五十一部 五百三十冊

計 三千四百四〇部 三千九百二十一冊  
この外に慣習法規、敕文の類二千二百七十三部が蒐藏せ

られてをる。此等の安南本は洋風に數冊づゝ合して製本され、あけはなしの書架に縦に排列してあり、濕氣多き熱帶地として蠹害の恐れあるのは遺憾である。學院備へつけの安南本の目録としては入庫の番號順に記入した帳簿と書引きカード目録の二つがあつた。一九三三年八月本塾望月基金の旅として河内を問ふた際、同所の雇員鄭文炬氏に托してその中前者を謄寫して貰ひ、之を歸來畫引きに分類して印行したのが本書目である。前記安南本三部門の中第一の内容が之でわかるわけである。安南本の目録として従來吾人に知られてゐたのは、ペリオ氏とカデイエル氏合著の「安南史の安南資料に對する最初の研究」<sup>(1)</sup>であるが、之と僅か一七五部を擧げてをるに過ぎず(L. Cadière et P. Pelliot, Première Etude sur les sources annamites de l'histoire d'Annam, B. F. F. E. O, IV, 1904.)一九一〇年に學院雜誌に、更に若干冊追補がなされたが極く小部分しかも名目だけに止まつてをる。従つて本邦學界は殆ど安南本の存在を知らず、明治十七年大越史記公刊以來全く安

南書誌學と交渉がなかつたわけである。本書目の公刊により安南書の輪廓を我學界に紹介することが出來たら幸ひである。もとより學院の手により他日完全なる安南本目録の公刊されることは明かであるが、それまでの間安南本を研究し、其の蒐集の志ある者に本書目は多少の便宜を供し得ると信ずる。學院で出版する前に此の未公刊の書目を日本で印行するのは甚だ僭越の氣がするが、所員ガスパードン氏から刊行の懇懇を受け、且つ自分としても安南本研究の必要に迫られての企てであつて他意あるのではないから其の點御容赦を請ひたい。本書目は予の「安南文獻目録」の第一編であり、次に順化の王室文庫の藏書目録を掲載する豫定である。なほ本書目印刷の最中河内よりの通信によりガスパードン氏の Bibliographie annamite 完成のことを知つた。之によつて、安南書誌學に對する吾人の多年の渴望も醫されることと信ずる。

註一、馮承鈞、「安南書錄」(國立北平圖書館叢六卷一號)は本論文の漢譯である。